

公益財団法人日本アレルギー
協会関東支部

〒102-0074
東京都千代田区九段南 4-5-11
富士ビル4階
TEL 03-3222-3437
FAX 03-3222-3438
ホームページ

<http://www.jaanet.org/office/kanto.html>

関 東 支 部

だ よ り

第 14 号(2013 年 6 月発行)

(本紙は日本アレルギー協会関東支部ホームページにも掲載されています)

本号の目次	頁
1. はじめに	支部長 2
2. 公益財団法人日本アレルギー協会理事会報告	3
3. トピックス 薬物過敏症への対処 帝京大学医学部内科学講座 呼吸器・アレルギー学 山口 正雄	4～7
4. 平成 24 年度関東支部事業概要	8～10
5. 患者団体講演会、集会 (関東支部地域、平成 25 年 7 月～12 月分)	10～11
6. 一般社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会 (日本アレルギー学会と同関連学会 7 月～12 月分)	11～12
7. 一般社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会 (関東支部地域、平成 25 年 7 月～12 月分)	13～15
8. 公益財団法人日本アレルギー協会理事、監事、評議員 (平成 25 年 6 月 21 日現在)	15
9. 公益財団法人日本アレルギー協会関東支部評議員県(地区)別業務分担表	16
10. 公益財団法人日本アレルギー協会関東支部評議員業務分担表	16

おことわり 前号にて本号より経費節約のため発行形態をホームページ掲載のみにするとお知らせいたしました。そして発行したことをEメールでご通知するつもりでありましたが、事務局でEメールアドレスを把握していない会員の方がかなり居られますことと、前号の時点に比し、収支状況好転のきざしがありますので、引き続き印刷誌をお送りすることにいたしました。

1. はじめに

梅雨の候ではありますが、会員の皆様方には益々ご健勝にて、ご活躍のことと存じます。

今春のアレルギー週間には、当関東支部各地区委員会のご努力と会員皆様のご協力により、一般向け講演会が埼玉、山梨、千葉中央、神奈川、東京多摩・城北、千葉東部、長野の7ヶ所で盛況裡に開催されました(第8～10頁参照)。心よりお礼申し上げます。

さて、本号の最初に、去る6月7日に開催された協会本部理事会の内容を報告いたします。

本号のトピックス欄には、帝京大学呼吸器アレルギー内科教授 山口正雄先生に「**薬剤過敏症への対応**」を執筆していただきました。(第4～7頁)。

また例年通り、平成25年7月～12月の関東支部地域における患者会行事予定リスト、一般社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会予定リストを掲載いたしました。

本年秋には関東支部評議員(本部理事、監事、評議員を除く)の選挙を行う予定です。ご協力をお願い致します。

引き続き、当支部を含め日本アレルギー協会の活動に対する会員皆様のご協力をよろしくお願い致します。

なお、平成25年4月より協会本部ならびに関東支部事務長に林正樹氏の後任として、福野昌顯氏が就任されました。

平成25年6月 関東支部長 伊藤 幸治

2. 公益財団法人日本アレルギー協会理事会報告

関東支部長

(公財)日本アレルギー協会理事会(理事長 宮本昭正先生)が平成 25 年 6 月 7 日、KKRホテル東京で開催され、関東支部からは伊藤幸治理事・支部長、秋山一男理事、足立満理事、岩本逸夫監事、佐野靖之監事が出席しました。審議し承認された主な点を以下に記します。

(1)本年度本部事業計画

- ①国際交流助成金を 3 名に交付する。
- ②真鍋奨学助成に 47 件の応募があり、6 月 7 日に同委員会で審査した結果、5 名に各 100 万円を交付することになった。
- ③第 20 回アレルギー週間は平成 26 年 2 月 17 日(月)～23 日(日)とし、平成 24 年度と同様に
1)アレルギー週間の広報、2)一般向けアレルギー講演会を含む一般向け啓発活動を行う。
一般向け中央講演会についても計画されつつある。
- ④患者相談協力専門医等名簿を発行する(10 月に発行予定)。
- ⑤アレルギー No.42 を発行する。
- ⑥実地医家向け「アレルギー研修会 2013」を平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月に開催を計画中。
- ⑦賛助会員(企業)向け「アレルギー研修会 2013」を開催する。

(2)支部事業計画

- ①平成 24 年度のアレルギー週間には各支部で一般向け講演会が活発に開催されたが、平成 25 年度も同様に開催予定である。
- ②例年通り研究助成事業を行う。
- ③平成 25 年 7 月下旬～8 月上旬に関東支部評議員会を開催する。
- ④アレルギー協会関東支部だよりを年 2 回発行する。

3. トピックス 薬物過敏症への対処

帝京大学医学部内科学講座 呼吸器・アレルギー学

山口 正雄

薬物投与時には、適正に投与したにもかかわらず、期待される薬理効果以外の有害な異常反応が稀に起こることがある。これは異常薬物反応 adverse drug reaction (ADR) とよばれ、Rawlins & Thompson により A 型と B 型に分類されている(1, 2)。A 型は誰に対しても用量依存的に発生する、薬理作用から予知可能な反応である。この中には過量投与、副作用、薬物間相互作用などが含まれる。一方、B 型は素因や感受性のある一部の患者において、常用量以下の投与でも起こり、薬理作用からは予測不可能な反応である。薬物アレルギーは B 型反応に分類され、アレルギー機序が関与しないが一旦発症すれば経過や治療は同等である反応(造影剤によるアナフィラキシー様反応など)も合わせて薬物過敏症と称する。

一般に薬物過敏症は皮疹として生ずることが多いのだが、筆者は内科医として診療に当たっていると、アナフィラキシー症状に関するコンサルトが多い。

わが国の厚労省人口動態統計によると、近年のアナフィラキシーショックによる死亡数は 50～70 名であるが、そのうち約 4～5 割の原因を医薬品が占めており、最多である(3)。

アナフィラキシー反応は IgE が関与する I 型アレルギーに分類されるが、IgE の関与を証明できない例も多く経験する。近年の生物製剤や分子標的薬の増加に伴い、皮疹や間質性肺炎など様々な過敏症状が生ずることが問題となっており、薬物過敏症の発症機序はますます複雑化してきている印象がある。

「血液検査によって、世の中の薬剤を安全に使える薬と避けるべき薬とに分類してほしい」という要望を外来で話す患者をしばしば経験するが、現実には分類は不可能である。

薬物過敏症の診断は予知・予測としてではなく、既に起きた(または現に起きている)症状に対して下される。診断のために最も有用な情報は、丁寧な問診に基づく正確な病歴である。薬物

投与開始後に如何なる時間経過で症状が出現したか、投与中止後に改善したか、もし再投与されていたとすれば再度症状が出現したか、の3点が重要である(4)。

I型反応の検査としては即時型皮膚反応(皮内反応、プリックテスト、スクラッチテスト)が用いられる。アレルギーを専門とする医師は、ぜひこの検査を知っておきたい。いずれのテストでも15~20分後に判定する。プリックテストでは膨疹径(長径と直交する短径の平均値)4mm以上あるいは発赤径(長径と短径の平均)15mm以上を陽性、皮内反応では膨疹径9mm以上あるいは発赤径20mm以上を陽性とする。皮内反応はプリックテストの100~1000倍高感度で信頼性が高いが、高度に過敏な患者では皮内への0.02ml注射だけでもアナフィラキシーが誘発されるリスクがある。一般に薬物過敏症の最も確実な診断法は、薬物の少量再負荷テストであるが、危険が伴うので、原因被疑薬の使用が今後必要な場合に限られる。

薬物過敏症が目前で起きているときの対処の原則は、原因薬物投与中止と対症療法である。原因を調べる検査は二の次であるが、治療に差し支えない範囲で臨床検体採取や情報収集を行うことは有用である(アナフィラキシーの確認のために血清を保管して後日トリプターゼ値測定に供する、薬物熱が疑われるときに1剤ずつ中止していく、など)。

以下、日常の診療の中で特に問題となることの多い原因薬剤について要点を述べる。

抗菌薬は薬物過敏症の重要な原因薬の1つである。ペニシリン系抗菌薬によるアナフィラキシーは特に症例数が多いが、日本では、薬剤使用実態を反映して、セフェム系、カルバペネム系、キノロン系などにも分散している傾向がある。アナフィラキシーを起こす分子構造は、 β ラクタム環自体ではなく側鎖が担っていることが多い。

かつては、注射用の β ラクタム抗菌薬の投与前に即時型皮膚反応検査がルーチンに行われたが、平成16年9月に添付文書から、皮膚反応検査を推奨する記載が除かれた。なお、問診が特に重要視され、過去に即時型アレルギーの既往があれば、 β ラクタム系抗菌薬全部を避けるのが原則となる。避けるべきとは言っても、 β ラクタム系抗菌薬の使用が必要な状況であれば、既往で問題となる薬物とは別系統の薬物の中から選択し(例、ペニシリン系を避けてセフェム系やカルバペ

ネム系から選ぶ)、即時型皮膚反応が陰性であることを確認してから慎重に投与という流れとなる。

局所麻酔薬は臨床現場での使用頻度がとても高い。歯科では局所麻酔薬を注射投与された患者の2.5~10%が何らかの異常反応を呈するとの報告もあり、安易に「局所麻酔薬アレルギー」とのレッテルを貼られると以降の処置において多大な制約が生じてしまう。実際には異常反応の殆どは心因性や、添加されている血管収縮薬や保存剤の成分で生じたものであり、主成分である局所麻酔薬自体の問題ではない。しかし、極めて稀ではあるが局所麻酔薬自体によるアナフィラキシー反応が起こりうる。

化学構造としてはアミド型とエステル型に大別され、両者には交差反応はない。エステル型の薬剤間では交差反応があり、加水分解によりパラアミノ安息香酸が生ずることが背景にある。アミド型薬剤は互いに交差しないと信じられてきたが、最近では交差反応を示す報告が散見される。

造影剤は、昔の製品と比べて電荷・浸透圧の改善により安全性はかなり高い。アナフィラキシー様反応を起こす率は低く、概ね数千回に1回の割合である。アナフィラキシー様反応の発症機序としてはマスト細胞の直接刺激・活性化が有名であるが、他に補体活性化や、コリンエステラーゼ阻害やキニン系活性化といった酵素活性制御、血小板や血管内皮細胞の傷害も推定されている。IgEの関与するアナフィラキシー症例の報告も稀にある。

喘息患者においては、アナフィラキシー症状が生じたときに気道攣縮を起こし重症化するリスクが高いことが、原則的に造影は行わない理由である。

造影剤で副作用の既往があるにも関わらず代替検査がなく、どうしても造影を必要とする場面では検査の13時間前、7時間前、1時間前にステロイド薬を大量に投与して予防を図る方法が教科書的に記載されている(1)。

参考文献

- 1) deShazo RD, Kemp SF: Allergic reactions to drugs and biologic agents. JAMA 278:1895 (1997)
- 2) Rawlins MD, Thompson W: Mechanisms of adverse drug reactions. Textbook of Adverse Drug Reactions, Davies DM (ed), p 18, Oxford University Press, New York (1991)

- 3) 海老澤元宏、西間三馨、秋山一男、Ruby Pawankar. アナフィラキシー対策とエピペン. アレルギー. 62:144 (2013)
- 4) 村中正治、山口正雄. 薬物アレルギー. 臨床アレルギー学. 改訂第3版. 宮本昭正 監修. p410-423. 南江堂. 2007.

4. 平成 24 年度事業概要報告書

実施事業	概要
<p>1 研究助成事業 自由課題研究助成</p> <p>① 携帯電話による喘息遠隔医療の有用性に関する研究</p> <p>2 啓発活動事業 第 19 回アレルギー週間行事</p> <p>① 埼玉地区市民公開講座 2013 日時:平成 25 年 2 月 2 日(土) 場所:所沢市民文化センターミュージアザ・スクエア 参加人数:約 100 名</p> <p>② 山梨アレルギー市民フォーラム 2013 日時:平成 25 年 2 月 10 日(日) 場所:山梨大学医学部臨床小講堂 参加人数:53 名</p> <p>③ 千葉ブロック中央地区市民公開講座と相談会 日時:平成 25 年 2 月 17 日(日) 場所:千葉市文化センター5階セミナー室 参加人数:92 名</p>	<p>中村陽一(横浜市立みなと赤十字病院) 研究期間:平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月</p> <p>司会:永田 真(埼玉医科大学アレルギーセンター、同呼吸器内科) 講演:中村晃一郎(埼玉医科大学皮膚科・アレルギーセンター) 「アトピー性皮膚炎」 西原冬実(埼玉医科大学呼吸器内科・アレルギーセンター) 「気管支喘息」 吉田尚弘(自治医科大学附属さいたま医療センター耳鼻咽喉科) 「スギ花粉症」</p> <p>司会:増山敬祐(山梨大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座) 講演:高橋 博(山梨大学医学部眼科学講座) 「眼科領域のアレルギー疾患について」 増山敬祐(山梨大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座) 「花粉症について」 石原 裕(山梨大学医学部内科学講座第2 教室) 「気管支喘息について」 塚本克彦(県立中央病院皮膚科) 「アトピー性皮膚炎について」 池田久剛(山梨厚生病院小児科) 「食物アレルギーについて」</p> <p>テーマ:アレルギー疾患の克服に向けて 第1部:特別講演 司会:河野陽一(千葉大学大学院医学研究院小児病態学) 山出晶子(千葉県こども病院アレルギー・膠原病科) 「食物アレルギーへの最近の取り組み」 星岡 明(千葉県こども病院アレルギー・膠原病科) 「喘息、子どもから大人まで、今すぐできること」 司会:岡本美孝(千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学) 米倉修二(千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学) 「花粉症の治療管理」 佐藤貴史(千葉大学大学院医学研究院皮膚科学) 「アトピー性皮膚炎の早期治療の考え方」 第2部:質問コーナー 司会:板谷喬起(板谷内科クリニック) 椿 俊和(つばきこどもクリニック) 回答者:第1部講演の講師</p>

<p>④神奈川県アレルギー患者相談会 日時:平成25年2月17日(日) 場所:横浜新都市ビル(そごう) 9階ミーティングルーム 参加人数:約70名</p>	<p>講演:『アトピー性皮膚炎への対処とその重要性～皮膚からみたアレルギー性疾患～』 講師:朝比奈昭彦(国立病院機構相模原病院) 個別相談 相談員 小児科(食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・小児喘息など) 高増哲也(神奈川県立こども医療センター) 海老澤元宏(国立病院機構相模原病院) 皮膚科(成人アトピー性皮膚炎・じんましん など) 川口博史(金沢皮膚科) 朝比奈昭彦(国立病院機構相模原病院) 内科(成人喘息・COPD・アレルギー性鼻炎など) 谷口正実(国立病院機構相模原病院) 秋山一男(国立病院機構相模原病院)</p>
<p>⑤東京多摩・城北地区市民公開講座 日時:平成25年2月24日(日) 場所:国立病院機構東京病院大会議室 参加人数:36名</p>	<p>講演1 司会:大田 健(国立病院機構東京病院院長) 講演:庄司俊輔(国立病院機構東京病院副院長) 「長引く咳と気管支喘息」 講演2 司会:波田野洋一(はたの耳鼻咽喉科院長) 講演:大久保公裕(日本医科大学耳鼻咽喉科学主任教授) 「2013年花粉症の対策と治療」</p>
<p>⑥千葉ブロック東部地区市民公開講座と 相談会 日時:平成25年3月3日(日) 場所:成田市保健福祉館 参加人数:75名</p>	<p>第1部:特別講演 司会:松山 剛(県立佐原病院小児科) 鈴木修一(国立病院機構下志津病院小児科) 「食物アレルギーの基本と対応」 司会:永山博敏(国保旭中央病院皮膚科) 田辺恵美子(千葉中央皮膚科) 「アトピー性皮膚炎についてー治療のポイントー」 第2部:質問コーナー 司会:平栗雅樹(成田赤十字病院) 松山 剛(県立佐原病院) 回答者:特別講演演者 岩本逸夫(国保旭中央病院) 太田 康(東邦大学医療センター佐倉病院)</p>
<p>⑦信州アレルギー市民フォーラム 2013 日時:平成25年3月16日(土) 場所:信州大学医学部附属病院外 来棟4階 中会議室 参加人数:60名</p>	<p>テーマ「大人のぜんそく」 司会:久保惠嗣(信州大学医学部附属病院呼吸器センター 呼吸器・感染症内科) 講演:藤本圭作(信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻生体情報検査学講座)</p>
<p>3 患者会への援助</p>	<p>アレルギー患者会活動(行事)に対する援助 援助先:認定NPO法人日本アレルギー友の会、 NPO法人相模原アレルギーの会</p>

4 広報活動事業	「関東支部だより」の発行 関東支部個人会員向けに第12号(6月)、第13号(1月)発行、配布
5 会議の開催	関東支部評議員会開催 平成24年8月1日(水)

5. 患者団体講演会、集会（当関東支部：東京都、長野・山梨・埼玉・千葉・神奈川の各県分、2013年7月～12月）

会員以外の方でも自由に参加できます。

日時	会名	会場	主催団体、連絡先
8月25日(日) 14:20～16:30	夏期特別講演会 「EP模擬試験および試験の 解説」 「演題未定」	東京都港区高輪コミュニティー ぶらざ1階 高輪区民センター 地下鉄南北線・三田線「白金高 輪」駅下車、1番出口 (駅の真上です。)	NPO 法人環境汚染等から呼吸器病患者 を守る会(通称:エパレク)事務局 (事前申込:必要) http://eparec.org/ E-mail: eparec@nifty.com TEL: 03-6272-9413 FAX: 03-6272-9414
10月5日(土) 13:30～16:30	第10回 ミニ講演会・懇親会	ユニコムプラザさがみはら ポーノ相模大野 3F 小田急線「相模大野」駅北口徒 歩5分	NPO 法人 相模原アレルギーの会 (事前申込:必要) http://www.sagamihara-allergy.or.jp/ E-mail: allergy-kai@sagamihara-allergy.or.jp TEL: 042-745-8801
10月26日(土) 12:30～16:30	第13回 講演会・相談会「舌下 経口剤療法」 司会:秋山一男(内科) 講師:大久保公裕(耳鼻咽喉 科)	ユニコムプラザさがみはら ポーノ相模大野 3F 小田急線「相模大野」駅北口 徒歩5分	NPO 法人 相模原アレルギーの会 (事前申込:必要) http://www.sagamihara-allergy.or.jp/ E-mail: allergy-kai@sagamihara-allergy.or.jp TEL: 042-745-8801
11月17日(日) 12:30～16:00	講演会とQ&A 講師: 未定 (内科) 未定 (皮膚科)	東医健保会館ホール(新宿区) JR信濃町駅下車徒歩5分	認定 NPO 法人日本アレルギー友の会 TEL 03-3634-0865 (毎週火・土曜日 11:00～16:00) (事前申込:必要) FAX: 03-3634-0850 http://www.allergy.gr.jp/ E-mail: j-allergy@nifty.com
12月7日(土) 12:30～16:30	食物アレルギーを持つ人のた めの調理実習	ユニコムプラザさがみはら ポーノ相模大野 3F 小田急線「相模大野」駅北口 徒歩5分	NPO 法人 相模原アレルギーの会 (事前申込:必要) http://www.sagamihara-allergy.or.jp/ E-mail: allergy-kai@sagamihara-allergy.or.jp TEL: 042-745-8801
12月14日(土) 12:30～17:00	アレルギーを考える母の会主 催講演会「知っておきたい食物 アレルギーの治療と対策」 座長:西間三馨(小児科)、講 師:今井孝之(小児科)、渡辺博 子(小児科)	海老名市商工会館(神奈川県 海老名市) 小田急小田原線・相模鉄道線・ JR 相模線「海老名駅」より徒歩 10分	NPO 法人アレルギーを考える母の会 定員:先着 200名(事前申込:必要) 保育 30名まで http://www.hahanokai.org/ FAX: 045-362-3106 E-mail: m-sonobe@cf6.so-net.ne.jp

(日時未定)	食物アレルギーを持つ人のための調理実習	(会場未定)	NPO 法人 相模原アレルギーの会 (事前申込:必要) http://www.sagamihara-allergy.or.jp/ E-mail: allergy-kai@sagamihara-allergy.or.jp TEL: 042-745-8801
毎月第2土曜日 13:00~17:00 (8月は休会)	ぜん息学習会	東京都港区高輪コミュニティー ぶらざ内3階 高輪区民センター 地下鉄南北線・三田線「白金高輪」駅下車、1番出口 (駅の真上です。)	NPO 法人環境汚染等から呼吸器病患者を守る会(通称:エパレク)事務局 (事前申込:不要) http://eparec.org/ E-mail: eparec@nifty.com TEL: 03-6272-9413 FAX: 03-6272-9414
毎月第3土曜日 13:00~15:00	患者交流会(ぜんそく・アトピー性皮膚炎)	認定 NPO 法人日本アレルギー友の会事務所(都営新宿線・半蔵門線住吉駅、JR 錦糸町駅より都バス「住吉駅前」下車徒歩3分)	認定 NPO 法人日本アレルギー友の会 TEL: 03-3634-0865 (毎週火・土曜日 11:00~16:00) ※ 要予約 FAX: 03-3634-0850 http://www.allergy.gr.jp/ E-mail: j-allergy@nifty.com
毎月第4火曜日(祝日も開催) 10:00~12:00	アレルギー相談・患者交流会「ちょっと chat の会」 どなたでもお気軽に。 出入り自由です。	かながわ県民センター 15階セルフヘルプ相談室1 (「横浜」駅西口徒歩5分 横浜市鶴屋町2-24-2) TEL045-312-1121(内 3501) FAX 相談 045-312-6307	NPO 法人アレルギーを考える母の会 http://www.hahanokai.org/ FAX: 045-362-3106 E-mail: m-sonobe@cf6.so-net.ne.jp
(1) 毎月1回/不定期 9:30~11:30 (2) 奇数月/不定期 10:00~12:00 (HPでお知らせします)	(1) しゃべり場/自由が丘 (2) しゃべり場/八王子 入退場は自由です。ご家族でお出かけください。親が自由にお喋りをする場。初歩的な質問大歓迎です。 *5人集まれば、どこでも「出張しゃべり場」を開催します。 (例:教育機関、児童館、保健所、病院等)	(1)目黒区緑ヶ丘文化会館第2研修室(自由が丘駅から徒歩7分) (2)八王子市民活動支援センター(八王子駅から徒歩3分)	NPO 法人アレルギー児を支える全国ネット「アラジーポット」 http://www.allergypot.net TEL: 090-4728-5421 (事前申込:不要) E-mail: marikuri@allergypot.net

6. 一般社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会(日本アレルギー学会と同関連学会)(2013年7月~12月)

以下は一般社団法人日本アレルギー学会の許可を得て、同会誌「アレルギー」2012年12月号(61巻12号)1752-1764頁、会報「専門医制度情報 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会開催予定(2013年・国内)」およびインターネット同学会公式サイト「社団法人日本アレルギー学会:専門医制度にかかわる各種開催案内」より7月~12月の日本アレルギー学会と同関連学会(*)のみ抜粋して掲載した。

会	会名	会期	会場	担当施設・連絡先	会長・TEL
44	日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会	7月5日(金)～6日(土)	小田急ホテルセンチュリー相模大野	(独)国立病院機構相模原病院臨床研究センター事務局 〒252-0392 神奈川県相模原市南区桜台 18-1 TEL: 042-742-9721 FAX: 042-742-7990 事務局長:長谷川真紀	秋山一男 042-742-9721
7 *	相模原臨床アレルギーセミナー	8月2日(金)～4日(日)	パシフィコ横浜	(独)国立病院機構相模原病院臨床研究センター事務局 〒252-0392 神奈川県相模原市南区桜台 18-1 TEL: 042-742-9721 FAX: 042-742-7990	谷口正実 042-742-9721
44	日本アレルギー学会専門医教育セミナー	8月25日(日) 10:00～16:30	連合会館(旧総評会館)(東京)	一般社団法人日本アレルギー学会 〒110-0005 東京都台東区上野1-13-3	03-5807-1701
52 *	日本鼻科学会	9月26日(木)～28日(土)	未定	未定	未定
50 *	日本小児アレルギー学会	10月19日(土)～20日(日)	パシフィコ横浜会議センター	国立病院機構相模原病院臨床研究センターアレルギー・性疾患研究部 〒252-0392 神奈川県相模原市南区桜台 18-1	海老澤元宏 042-742-8311
67 *	日本臨床眼科学会 SIG MEETING	10月31日(木)～11月3日(日)	パシフィコ横浜	北里大学医学部眼科日本眼科アレルギー研究会事務局 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-4-7	海老原伸行 03-5287-3801
41 *	日本臨床免疫学会総会	11月27日(水)～29日(金)	海峡メッセ下関	(未定)	山村 隆 (国立精神・神経研究センター神経研究所)
63	日本アレルギー学会秋季学術大会	11月28日(木)～30日(土)	ホテルニューオータニ(東京)	日本医科大学耳鼻咽喉科 〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5	大久保公裕 03-3822-2131
43 *	日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会	11月29日(金)～12月1日(日)	ホテル日航金沢	金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚科学 〒920-8641 石川県金沢市宝町13-1 TEL: 076-265-2343 FAX: 076-234-4270 事務局長:藤本 学	竹原和彦
42 *	日本免疫学会学術集会	12月11日(水)～13日(金)	幕張メッセ	特定非営利活動法人日本免疫学会	清野 宏

7. 一般社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会(当関東支部:東京都、長野・山梨・埼玉・千葉・神奈川の各県分、2013年7月～12月)

以下は一般社団法人日本アレルギー学会の許可を得て、同会誌「アレルギー」2012年12月号(61巻12号)1752-1764頁、会報「専門医制度情報 社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会開催予定(2013・国内)およびインターネット同学会公式サイト「社団法人日本アレルギー学会:専門医制度にかかわる各種開催案内」より山梨、長野県を含む関東支部地区7月～12月分を抜粋して転載した(日本アレルギー学会と関連学会は第11～12頁掲載)。なお、同号で(未定)となっていた部分は、当方より問い合わせを判明した場合、補充した。

回	会名	会期	会場	担当施設・連絡先	会長・TEL
34	日本炎症・再生医学会**	7月2日(火) ～3日(水)	国立京都国際会館	(第34回事務局)京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学 〒606-8507 京都府京都市左京区聖護院川原町54 (事務取扱)UENO CONGRESS SERVICE 〒602-0855 京都府京都市上京区河原町通荒神口下ル西側安田ビル TEL: 075-213-7057	三森経世
87	臨床免疫セミナー	7月6日(土) 18:35～20:50	矢満登ビル (東京都中央区八重洲1-7-4)	北里大学医学部小児科 〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里1-15-1	野間 剛 042-778-8111
3	SAITAMA ALLERGY WORKSHOP	7月11日(木) 18:35～20:50	川越プリンスホテル 3階	埼玉医科大学呼吸器内科アレルギーセンター 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	永田 真 049-276-1319
18	日本ラテックスアレルギー研究会	7月28日(日)	横浜シンポジア	横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学教室 〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3-9	相原道子 045-787-2675
25	城東地区小児アレルギー懇話会	7月	(未定)	(未定)	(未定)
12	お茶の水小児アレルギー研究会	7月頃	(未定)		
71	臨床アレルギー研究会(関東)	7月27日(土) 13:00～18:00	富国生命ビル 28階会議室	千葉大学医学部附属病院小児科 〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1	下条直樹
42	埼玉喘息・アレルギー研究会	8月31日(土) 14:40～18:25	埼玉県民健康センター1階 A・B会議室	埼玉医科大学小児科 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	徳山研一 049-276-1218
63	関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会	9月1日(日) 14:00～17:10	日本教育会館9階 「平安の間」(東京)	日本医科大学耳鼻咽喉科 〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5	大久保公裕 03-3822-2131 (代)

12	千葉県喘息吸入療法研究会	9月5日(木) 19:00~21:00	京成ホテルミラマ ーレ	千葉大学大学院医学研究院アレルギー・臨床免疫学 〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥 鼻1-8-1 TEL: 043-226-2198	西牟田敏之
20	城東ブロックアレルギー懇話会	9月19日(木) 19:00~21:00	東武ホテルレバン ト東京	めざわ耳鼻科クリニック 〒123-0873 東京都足立区扇 2-46-13 ケーアンドエー高野ビル2F TEL: 03-5837-8711	宮本康文 03-5633-7065
5	多摩気管支喘息研究会	9月26日(木) 19:00~21:00	パレスホテル立川 4階「ローズルー ム」	杏林大学医学部第一内科 〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2	後藤 元 0422-47-5511
25	東京城南喘息・アレルギー研究会	9月または10 月(未定)	(未定)	(未定)	(未定)
16	埼玉小児アレルギー研究会	10月3日(木) 19:00~21:00	パレスホテル大宮	埼玉県立小児医療センター 〒339-0077 埼玉県さいたま市岩槻 区馬込2100	川野 豊 048-758-1811
31	呼吸器・免疫シンポジウム	10月5日(土) または 11月16日(土)	トップオブスクエア 宴 千代田区大手 町1-5-1 大手町フ ァーストスクエアウ エストタワー23F	呼吸器・アレルギー疾患研究所 〒107-0062 東京都港区南青山 1-3-1 パークアクシス青山一丁目タワー 2106	足立 満 03-6804-2671
2	日本眼科学会アレルギー講習会	10月5日(土)	東京コンファレンス センター・品川	日本眼科アレルギー研究会 〒169-0075 東京都新宿区高田馬 場2-4-7 TEL: 03-5287-3801	福島敦樹 03-5287-3801
23	日本小児リウマチ学会	10月11日(金) ~13日(日)	ラフレ埼玉	埼玉県立小児医療センター感染免 疫科 〒339-0077 埼玉県さいたま市岩槻 区馬込2100	大石 勉 048-758-1811
18	東京ロイコトリエン研究会	10月12日(土) 16:00~18:00	ホテルオークラ東 京	新橋アレルギー・リウマチクリニック 〒105-0004 東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル318	宮本 昭正 03-3591-5464
6	鼻アレルギーフォーラム in Saitama	10月17日(木) 18:45~21:00	浦和ロイヤルパイ インズホテル	埼玉医科大学耳鼻咽喉科 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町 毛呂本郷38	加瀬康弘 049-276-1253
33	多摩小児アレルギー臨床懇話会	10月26日(土) 15:00~19:00	日本医科大学附属 多摩永山病院 C棟2階集会室	山口小児クリニック 〒195-0063 東京都町田市野津田町 1364 TEL: 042-736-1121	飛田正俊 042-355-8505
15	信州喘息・COPD Management Forum	10月26日(土) 17:00~19:00	ホテルブエナビス タ	信州大学医学部内科学第一講座 〒390-0802 長野県松本市旭3-1-1	花岡正幸 0263-35-4600
11	城南小児アレルギー懇話会	10月	目黒雅叙園	東邦大学大森病院小児科 〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1	佐地 勉 03-3762-4151

9	山梨吸入療法研究会	秋	(未定)	市立甲府病院呼吸器内科西川圭一 〒400-0832 山梨県甲府市増坪町 366 TEL: 055-244-1111(代)	小澤克良 055-244-1111 (代)
39	臨床アレルギー懇話会	11月頃(予定) 19:00~20:00	東京慈恵会医科大学	東京慈恵会医科大学 〒105-8471 東京都港区西新橋 3-19-18	
2	北多摩アレルギー研究会	11月23日(土)	(未定)	(独)国立病院機構東京病院アレルギー科 〒204-8585 東京都清瀬市竹丘 3-1-1	庄司俊輔 042-491-2111
23	日本眼科アレルギー講習会 (日本眼科アレルギー研究会主催)	11月(未定)	(未定)	日本眼科アレルギー研究会 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-4-7 TEL: 03-5287-3801	(未定)
4	Airway Club Tokyo	11月 19:00~21:00	新宿京王プラザホテル	順天堂大学耳鼻咽喉科 三輪正人 〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1 TEL: 03-5802-1229	三輪正人 (順天堂大学) 後藤 穰 (日本医科大学)
3	重症喘息研究フォーラム・SARF	12月6日(金) 18:45~20:45	(未定)	国立病院機構東京病院 〒204-8585 東京都清瀬市竹丘 3-1-1	大田 健 042-491-2111

* * 関東支部地域開催ではないが特に記載した。

8. 公益財団法人日本アレルギー協会理事、監事、評議員 (平成 25 年 6 月 21 日 現在)

	理事長 宮本 昭正	
北海道支部	理事 有賀 正 (支部長)	評議員 高橋 裕樹
東北支部	同 山内 広平 (支部長)、田村 弦	同 高梨 信吾、棟方 充
北関東支部	同 土橋 邦生 (支部長)	同 鈴木 栄一
関東支部	同 伊藤 幸治 (支部長) 秋山 一男、足立 満	同 大久保公裕、大田 健、 岡本 美孝、西牟田敏之
東海支部	同 高木 健三 (支部長)	同 近藤 直実
北陸支部	同 眞弓 光文 (支部長)	同 藤村 政樹
関西支部	同 東田 有智 (支部長)、川瀬 一郎	同 末廣 豊、竹中 洋
中国支部	同 宗田 良 (支部長)	同 秀 道広
四国支部	同 西岡 安彦 (支部長)	同 大串 文隆
九州支部	同 西間 三馨 (支部長)	同 久保 千春
本部	同 今村 聡、松尾 紀彦	
	監事 岩本 逸夫、佐野 靖之	

9. 平成25年度関東支部評議員県（地区）別業務分担表

県・地区	担当地区	地区別責任者 (研修責任者)	啓発活動委員会 (アレルギー週間地区別委員)	支部 JAANET 編集委員
関東地区	関東全域			永田 真
東京都 中央・城東地区	千代田区、中央区、港区、文京区、 足立区、江戸川区、葛飾区、 江東区、墨田区	佐野 靖之	佐野 靖之 大久保公裕 久松 建一 森田 寛	森田 寛
東京都 城西・城南地区	大田区、渋谷区、品川区、新宿区、 杉並区、世田谷区、豊島区、 中野区、目黒区	足立 満	足立 満 斎藤 博久 坂本 芳雄	斎藤 博久
東京都 城北・多摩地区	荒川区、板橋区、北区、台東区、 練馬区、 東京23区以外の市町村	大田 健	大田 健 塩原 哲夫 眞野 健次 山口 正雄	山口 正雄
埼玉県	埼玉県全域	永田 真	永田 真 飯野ゆき子 鈴木 直仁	倉島 一喜
千葉県	千葉県全域	西牟田敏之	西牟田敏之 岩本 逸夫 岡本 美孝 河野 陽一 富岡 玖夫 中島 裕史	岩本 逸夫
神奈川県	神奈川県全域	秋山 一男	秋山 一男 池澤 善郎 海老澤元宏 栗原 和幸	長谷川真紀
山梨県	山梨県全域	増山 敬祐	増山 敬祐	松崎 全成
長野県	長野県全域	藤本 圭作	藤本 圭作 久保 恵嗣	藤本 圭作

10. 平成25年度関東支部評議員業務分担表（◎ 委員長、○ 副委員長）

学術講習委員会	研究助成委員会		関東支部だより編集 委員会	庶務・会計
	委員会	審査部会		
◎ 富岡 玖夫	◎ 秋山 一男	◎ 秋山 一男	◎ 伊藤 幸治	◎ 斎藤 博久
○ 足立 満	○ 岡本 美孝	○ 岡本 美孝	○ 山口 正雄	
秋山 一男	足立 満	足立 満		
坂本 芳雄	伊藤 幸治	伊藤 幸治		
佐野 靖之	大田 健	河野 陽一		
塩原 哲夫	久保 恵嗣	富岡 玖夫		
鈴木 直仁	栗原 和幸			
増山 敬祐	河野 陽一			
	富岡 玖夫			
	森田 寛			
	山口 正雄			